

# 平成20年度予算案 に関する所見(参考資料)

土居 丈朗

慶應義塾大学経済学部准教授

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tdoi/>

# 平成20年度予算案の評価(1)

## ■ 一般会計予算

- 新発国債を減らし、国債依存度が低下した(H19: 30.7%→H20:30.5%)点で、財政健全化路線を維持(今後引き続き財政健全化努力が必要)
- 社会保障費の2200億円抑制を実現
- 公共事業費の対前年度比3%減を継続
- 中小企業の後継者の相続税負担を軽減する「事業承継税制」の導入

# 平成20年度予算案の評価(2)

## ■ 特別会計予算

- 積立金・剰余金を財政健全化へ活用(11.7兆円)

- 交付税特別会計...地域間の税収格差是正(地方法人特別税の創設)

地方法人2税と地方消費税の税源交換は時期尚早  
(消費税の社会保障財源化を優先すべし)

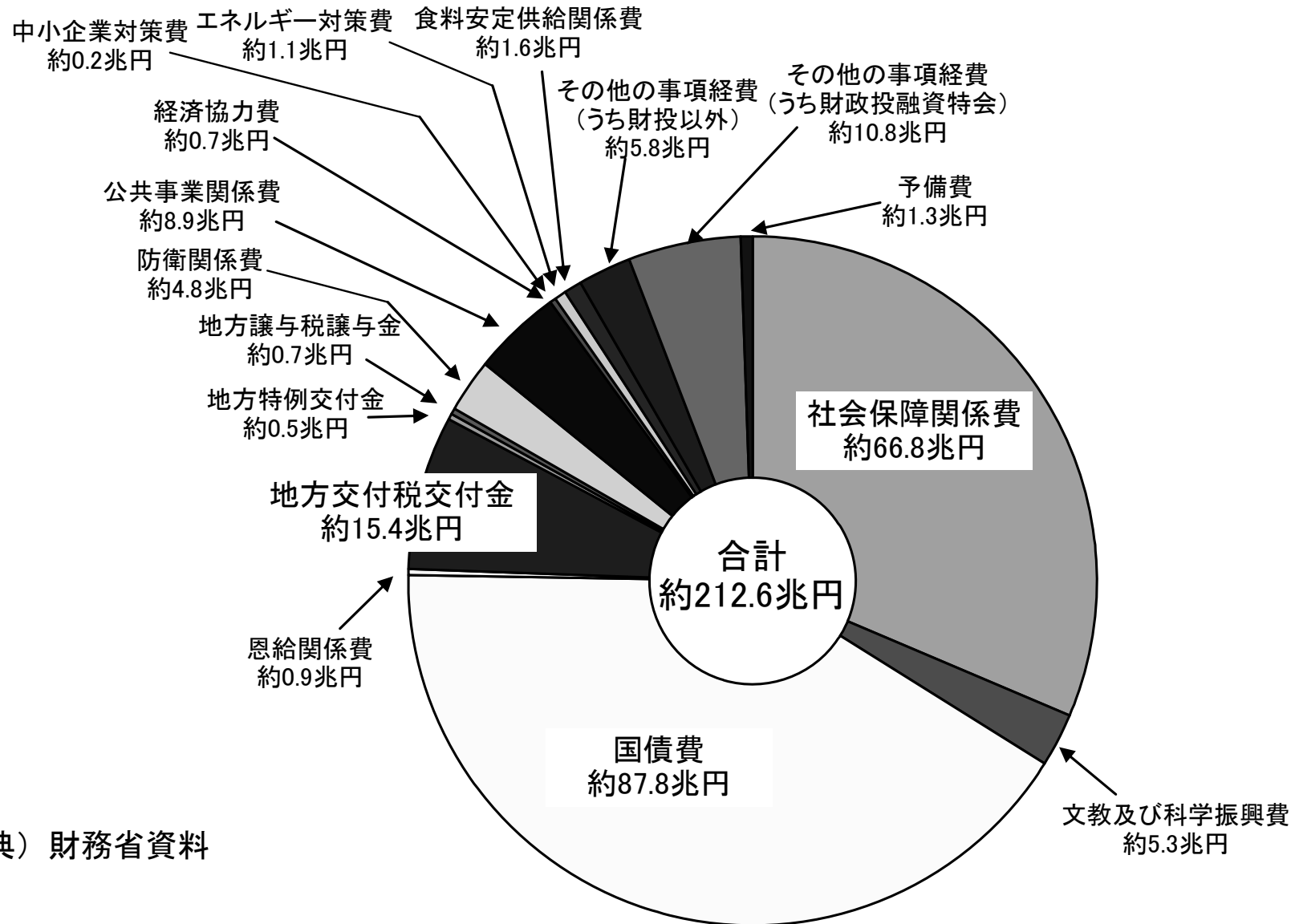
## ■ 政府関係機関予算

- 政策金融改革の仕上げ(新公庫発足)

新公庫の株式会社化は望ましい

# 平成20年度歳出予算 主要経費別純計

(一般会計と特別会計の合計)



(出典) 財務省資料

# 道路特定財源の暫定税率について(1)

## 挙げられている論点

- 真に必要な道路を作る(無駄な道路を作らない)
- 原油高に対する低所得者への配慮
- 地球温暖化対策 など

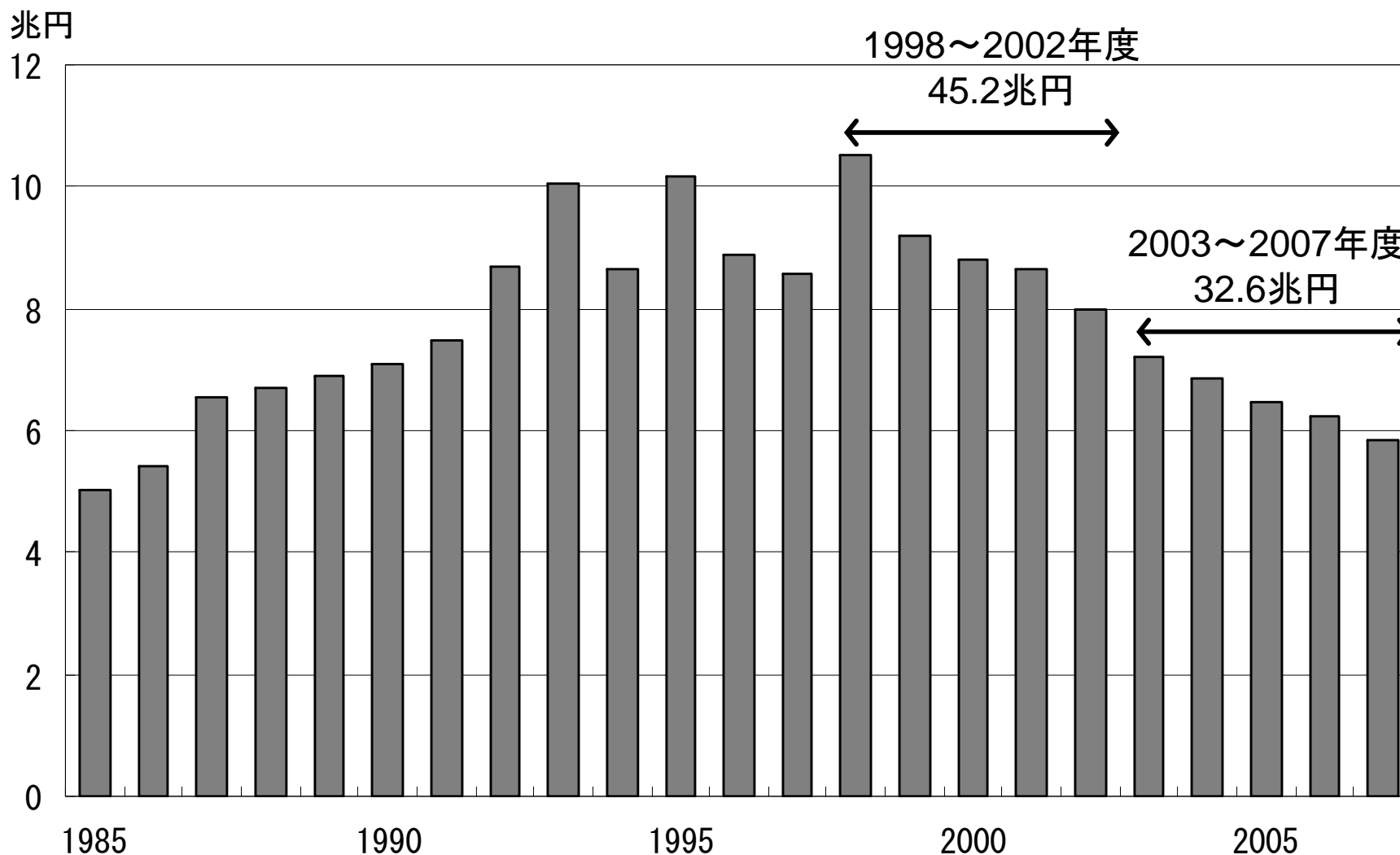
## 議論が錯綜

- 「ティンバーゲンの原理」...議論の混乱を解消するのに役立つ  
政策目標をうまく達成するには、政策目標の数と同じだけの政策手段がなければならない

## 道路特定財源の暫定税率について(2)

- 真に必要な道路を作る(無駄な道路を作らない)
  - 財源を確保した上で道路歳出の精査が必要
- 原油高に対する低所得者への配慮
  - 暫定税率撤廃でなくても対応可能(社会保障等)
- 地球温暖化対策
  - 暫定税率を撤廃すれば地球温暖化を促進
  - 暫定税率の維持が必要
- 暫定税率を維持しつつ道路歳出は厳しく精査する必要 → これらの政策目標を同時にうまく達成できる

# 道路整備費の推移(「59兆円」と対応する歳出額)



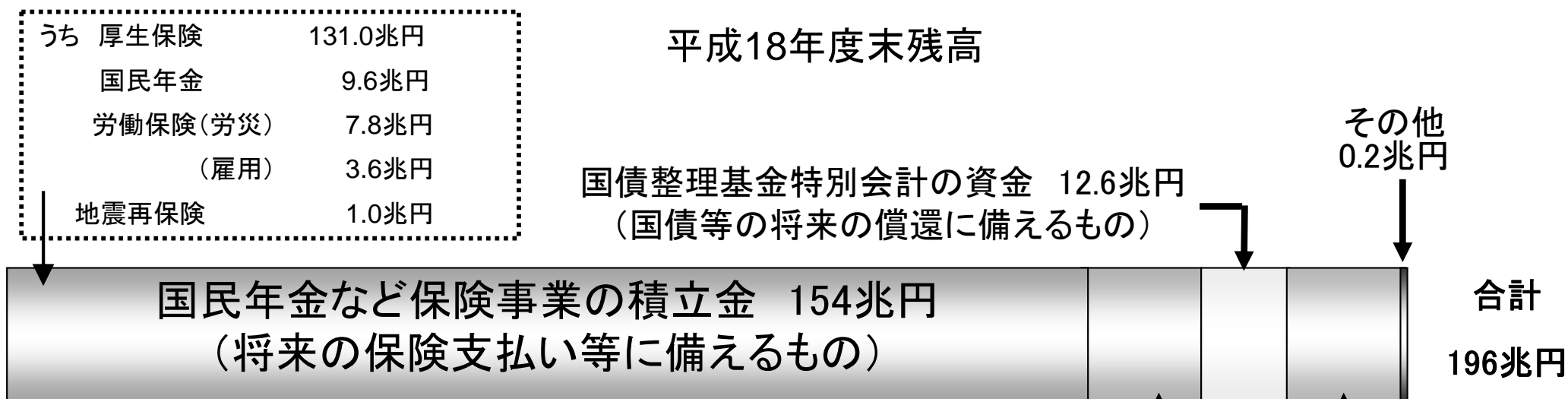
(出典) 国土交通省資料

今後の予算額(上限)をマクロ的に推計する手法は、妥当なものといえる

# 「埋蔵金」は本当にあるのか？(1)

## 特別会計の積立金

平成18年度末残高



外国為替資金特別会計の積立金 15.6兆円  
(為替及び金利の変動による損失に備えるもの)  
これとは別途、為替評価損が約13兆円発生

差額はわずかとなっており、通貨当局の市場からの信  
認の確保の観点から積立金を取り崩すべきではない

財政融資資金特別会計の積立金 14.4兆円  
(金利の変動による損失に備えるもの)

平成20年度に9.8兆円拠出し、金利変動準備  
金対総資産比50/1000以下となるから、こ  
れ以上取り崩すべきではない



# 「埋蔵金」は本当にあるか？(2)

- 独立行政法人などの遊休資産、剰余金
  - 独立行政法人の事務事業の精査することが重要
  - 独立行政法人が持つ資産負債差額がまるごと直ちに「埋蔵金」として活用できるものではない。事務事業を精査して、不要な事務事業を整理・縮小できてはじめて無駄遣いを減らして、効率的な予算配分が可能となる

# 今後に残された課題

## ■ 平成20年度予算における時限的措置

□ 被用者保険による政管健保支援（政管健保と組合健保の財政調整）：約1000億円の歳出抑制

□ 地域間の税収偏在の是正（地方法人特別税の創設）

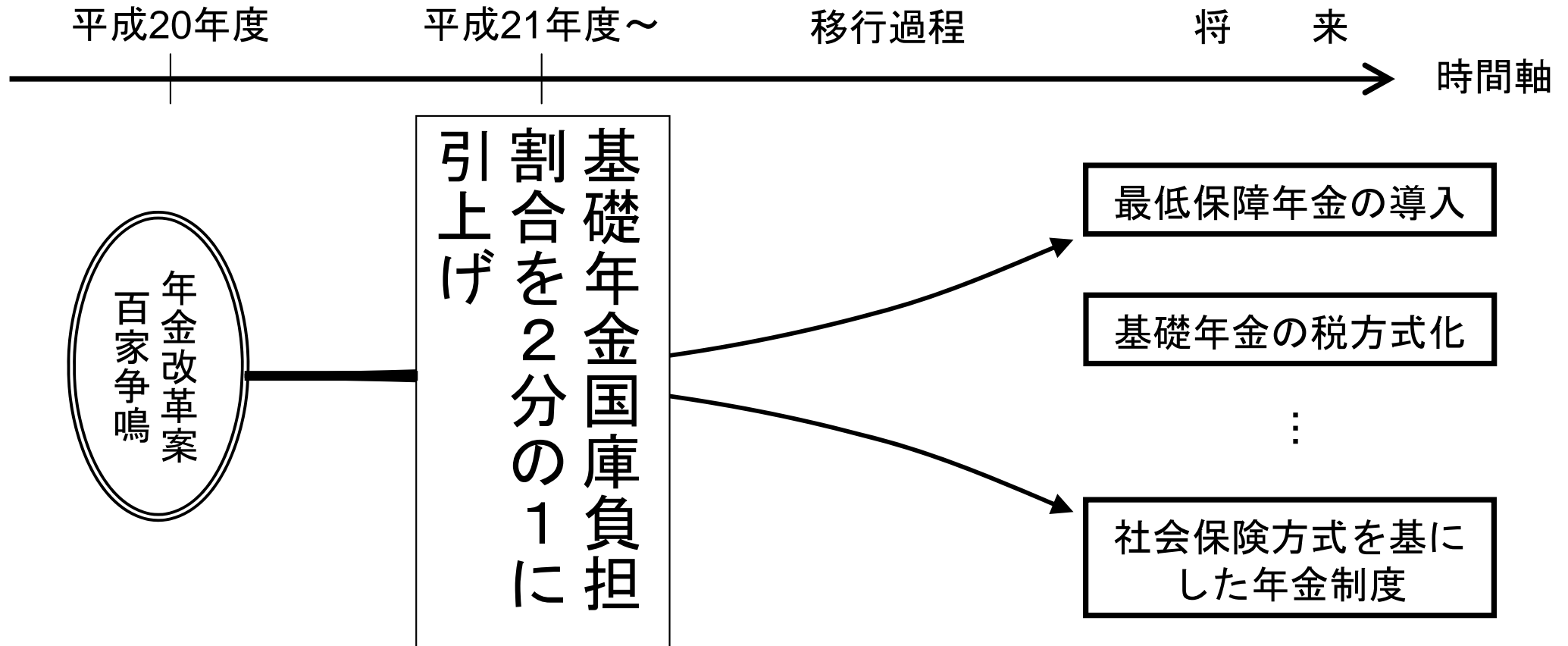
→ これらの恒久化が必要

## ■ 財政健全化の目標の堅持

□ 歳出削減だけでは財政健全化路線を維持できない

□ 消費税を含む抜本的な税制改革が不可欠

# 基礎年金国庫負担割合引上げに向けて



- 大半の年金改革案が越えなければならない一里塚
- 大同小異で、国庫負担の税財源確保に一致協力することが重要